

1 はじめに

ジュニア救急法(上級)は一般の普及講習会に準じた内容を中学生対象として、学校の保健体育授業を考慮したうえで、カリキュラムの編成を行なった。

2 指導計画

時間	指導項目	指導内容(抜粋)	評価の観点
1	応急手当の必要性	救命曲線(パネル) 傷病者を発見した時の対応 心肺蘇生(実技ポイント)	人を呼ぶこと(119番通報とAEDの要請)が出来たか 救急車到着するまで出来る応急手当が分かったか
2	心肺蘇生の実技	二人一組での実技練習 手順や方法を確認しながら練習	心肺蘇生の一連の動作の順番を覚えたか
3	心肺蘇生の実技	レサシアンを使つての練習	救急車が到着するまでに心肺蘇生法が出来たか
4	心肺蘇生の実技	レサシアンで心肺蘇生とAEDを使つての練習	心肺蘇生とAED使用の実技が確実に出来たか
5	止血と実技包帯法(巻軸帯)	大出血の応急手当 血液量の説明 直接圧迫止血 包帯の実技 RICE	血液の量や出血の種類が分かったか 止血法が出来たか 包帯法が出来たか
6	ロールプレイング	その他の応急手当 応急手当のロールプレイング	仮想事例から応急手当が出来たか

3 準備するもの

レサシアン・AEDトレーナー・滅菌ガーゼ・包帯・フェイスシールド  
血液量を知る(ペットボトル)など

4 指導上の留意点

- ① 指導時間1単位時間は、参加人数等により40分～50分とする。
- ② 子どもに分かり易く説明するためには、気道確保(空気の通り道)や下顎挙上法(下顎の骨張った堅いところを上挙げて首を伸ばす)など言葉と説明の工夫が必要。
- ③ 出来るだけ理論は短く、実技を中心に実施すること。
- ④ 実技は二人一組で出来るように工夫する(二人で実施することで、疑問点など質問し易くなる。心肺蘇生についても実技は二人一組で繰り返し行い、そのあとレサシアンを使つて一連の動作実習を行う。
- ⑤ 視覚や聴覚に訴えるもので、分かり易いものを各自作教材として用意する。